

「もう一杯下さい」の日韓対照研究

そん ほん やん
宣 憲 洋

1. はじめに

韓国語と日本語はとてもよく似ている。こんなところまで思うことがしばしばある。ところが、時には全く逆の表現や造語法になっていて驚かされることもある。

例えば韓国語では *yeogiceogi*, *igosceogos*, *irairaceoraira*, *ireohtaceoreohta* と言うものが日本語では、「あちこち、あれこれ、ああせえこうせえ、ああだのこうだの」となる。何故こうなるのだろうか。近接指示語が先に来るのが自然なような気がするが、日本語ではなぜ順序が逆になるのだろうか。母音で始まる語の方が言いやすいので先に来るのだろうか。

また、「着替える」は、” *karaipta* ” (替え着る)、乗り換えるは、” *karathata* ” (替え乗る)、立ち入るは、” *teureoseota* ” (入り立つ) とそれぞれ表現する。

2. このような例の一つに「もう一杯下さい」と” *han keureus teo cuseyo* ” がある。

日本語と韓国語で「もう一杯」と” *han keureus teo* ” (一杯もつ) の部分で順序が逆になっている。

因みに、「もう一杯下さい」を約200時間韓国語を学習した学生(小樽商科大学3年生で上級外国語 I g (朝鮮語)履修者5名(1~5)と韓国からの留学生2名(学部学生と院生(修士)各1名(A, B)に韓国語に翻訳させたところ下記のとおりであった。

(2007学年度後期)

1. *tasi han* __ *cuseyo*.. (以下__は空欄)
2. *teo han can cuseyo*.
3. *teo han can cuseyo*.
4. *tasi han can cuseyo*.
5. *teo han can cuseyo*.
- A. *han can teo cuseyo*.
- B. *han can teo cuseyo*

次は、「ご飯もう一杯ください」の韓国語訳である。

1. *papeul tasi han* __ *cuseyo*.
2. *pap tasi han can cuseyo*.
3. *pap teo han keureus cuseyo*.
4. *pap teo han keureus cuseyo*.
5. *papeul teo han keureus cuseyo*
- A. *pap han kongki teo cuseyo*.
- B. *pap han keureus (kongki) teo cuseyo*

更に、「ビールもう一杯ください」の韓国語訳。

1. maikcu tasi __ cuseyo.
 2. maikcu tasi han can cuseyo.
 3. maikcu teo han can cuseyo.
 4. maikcu teo han can cuseyo.
 5. maikcureul teo han can cuseyo.
- A. maikcu han can teo cuseyo.
B. maikcu han can teo cuseyo

「もう一杯下さい」の韓国語訳で、日本人学生全員が母語の干渉を受け、韓国語では非文となる”*teo han can cuseyo.*”と訳しているのが目に付くが、そもそもこの違いはどこから来るのだろうか。

韓国語の、*“han can teo cuseyo.”*を検討してみると、*“teo”*は副詞である。副詞は用言を修飾する語であるから、被修飾語”*cuseyo*”の直前にあるのは、当然である。

違いの原因は日本語の方にある。

日本語の「もう」も副詞である。ところが「一杯」は名詞である。

「日本語の副詞は「ずいぶん昔」とか「もっとはっきり」みたいに、用言ではなくて、名詞とか他の副詞を修飾することも普通にあるわけです。」町田健2000、37ページ

「数や量を表す語と共起したとき「もう」はその数や量との結びつきをより強くし、それは修飾するが、「まだ」は数や量とは結びつかず、あくまで述語との関係を保ち、既存の状態が継続中であることを表すと仮定する。」池田英喜、(2000)、54ページ。(下線、筆者)

3. むすび

「日本語と韓国語は、多方面から対照研究が行われてきたが、副詞に注目した研究はあまり見られない。これは両言語とも副詞の研究が他の分野に比べ遅れていることと、副詞の問題は辞書的な対応関係の問題に過ぎず、第二言語習得においてそれほど難しくないと認識されていたからだと思われる。」金賢珍(2005)、171ページ

日本語の場合は「もう」+数量詞の強い結びつきがあるため、「もう一杯下さい」という表現になるわけであるが、この違いを韓国語学習者に気づかせる必要がある。

参 考 文 献

1. 池田英喜 (1999) 「「もう」と「まだ」-状態の移行を前提とする2つの副詞-」、阪大日本語研究』11
2. 池田英喜 (2000) 「状態の移行前を表す「もう」／「まだ」について」、『阪大日本語研究』12
3. 金賢珍(2005) 「日韓両言語の程度副詞と共起する名詞について-「程度大」を表す語を中心に」、『名大多元文化』No.5